

平成 29 年度 国立中央青少年交流の家

体験活動を通じて「生きる力」を身につけよう 富士のさと わくわくキャンプ 家族編

平成 30 年 2 月 24 日 (土) ~ 2 月 25 日 (日) 1泊 2日

○目的

体験活動を通じて、子供たちの自主性・協調性・
基本的な生活習慣を育み「生きる力」を身につける。
古くから伝わる日本の文化や遊びを親子で体験
できる場所を提供する。

○参加者

16 家族 50 名
御殿場市 12 家族 裾野市 3 家族 沼津市 1 家族
保護者 25 名 子供 25 名



参加者全員で富士山ポーズ

○活動内容

当日の運営は、交流の家職員と実習生を含む総勢 12 名（ボランティア 9 名、社会教育実習生 3 名）が担った。事前に準備や試作、最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回の参加者は近隣 3 市町の幼児～小学 6 年生とその家族 50 名であった。

親子プログラムでは、わくわくフードハンティング、凧作り、凧揚げを実施し、食事作りにおいては巨大なべ、ダッチオーブンを使用した料理、カートンドック、もちつき大会をおこない、親子だけでなく家族同士の交流も深めることができた。

【1 日目 2 月 24 日 (土)】



《はじめの会》

「はじめまして」ごあいさつ



《アイスブレイク》

大人も子供も「こんにちは」



《親子プログラム①》

わくわくフードハンティング



《親子プログラム①ミッション》

家族写真「カシャ！」



《アウトドアクッキング》

巨大なべで夕食作り



《巨大なべで作るパエリア》

60 人分！美味しかった！



《ダッチオーブンを使った料理》

鶏の丸焼き野菜とともに
【2 日目 2 月 25 日 (日)】



《ボランティアスタッフ》

試作からがんばりました



《交流タイム》

親知らず子知らず交流ゲーム



《牛乳パックを使った朝食づくり》

カートンドック



《親子プログラム②凧づくり》

世界にひとつオリジナル凧



《親子プログラム②凧揚げ》

体験の風をおこそう



《もちつき大会》

かっぱいっきました！



《食後のスイーツ》

フラウニー&フルーツケーキ



《終わりの会》

感謝の気持ちを伝えました

《参加した子供の声》

- ・凧作りや、料理で難しいこともあったけれど、楽しい思い出づくりができてよかったです。(多数)
- ・お兄さんやお姉さんがやさしくしてくれて、とても楽しいキャンプでした。
- ・巨大なべが大きくてびっくりした。また、きかいがあったら参加して違うものを作りたい。

《参加した保護者の声》

- ・準備や子どもへの接し方などボランティアのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。(多数)
- ・鶏の丸焼きは大変でした。60 人分のパエリアはとても美味しく見事でした。
- ・親子プログラムや交流ゲームをしていく中で新しい発見や素直な気持ちが聞けてよかったです。
- ・自分が子供の頃経験した、凧揚げやもちつきを子どもにも体験させてあげてよかったです。

《成果と課題》

どのプログラムにおいても積極的に参加し、親子だけでなく家族同士が協力し、コミュニケーションをとる姿があらゆる場面で見ることができた。また、子供たちにとっても親やボランティアが見守る中、体験活動に失敗を恐れず挑戦することで「生きる力」について考えるきっかけとなった。

今回のキャンプで事前準備の重要性を再確認することができ、限られた時間の中で、スタッフ間の情報共有等の事前確認をより徹底する工夫と検討を積み重ねていくことが大切である。

今後、多様化する家族にどのようなプログラムを企画するのがよいか考える必要がある。